

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 2月 28日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4291200022		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 サンホーム新谷		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷 1700 番地 2		
自己評価作成日	平成 27年 1月 31日	評価結果市町受理日	平成 27年 3月 24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成 27年 2月 25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中で、当事業所の利用者の方が最期まで自分らしく生活出来る様に出来る限り付き合いたいと思い、利用者、御家族、地域、職員が大きな家族となって日々を暮らしています。又、地域の行事などの準備から職員が参加することによって地域と深く関わられるように取り組んでおり、利用者の方と地域の架け橋になれるよう努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

森林に囲まれた静かな環境のもと、職員が人生の先輩として敬いながら入居者をゆっくりとした雰囲気の中で支援するよう努めている。前のNPO法人の事業を現在の法人が譲り受け、グループホームサンホーム新谷が引き続き入居者を支援されている。地域密着型の事業所であり、地域に根付くように町内会にも入会され、地域の年二回の清掃活動・夏祭り・町の運動会等の行事にはできるだけ積極的に参加されている。地域の小学校の生徒との交流会も行われ、事業所内で行う餅つきでは近所にも配られている。身体拘束をしないためにも職員が入居者に合わせ、寄り添うように支援され、入居者と家族を除く管理者・職員・運営推進会議の全てのメンバーが苦情受付担当者になっている。ターミナルケアについても勉強し、取り組みを検討されており、今後さらに期待できる事業所である。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「スタッフ、利用者、家族、地域の方々が集まって、各々の素晴らしい力と共鳴を生み出すことを目標とする」と挙げ、理念を玄関入り口に掲示し、日々目に入る状況にありますので、共有していると思います。	理念の「笑顔・介護・支援」を玄関入り口の正面の目につく場所に掲げてあり、人生の先輩である入居者を敬い、以前の生活を継続してできるよう、当たり前の事は当たり前にする様に心掛け支援されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方々と会った際には、職員の方から挨拶し、地域の行事(運動会、夏祭り、一斉清掃、地区総会等)には必ず参加し、交流を深めています。	町内会にも入り、地域の夏祭りや運動会、清掃活動には職員と入居者(体調による)全員が参加する方針である。地元小学校の授業の一貫として入居者とおはじき・お手玉・けん玉等の昔の遊びで交流をもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場や地域の代表の方々と、機会がある度に地域に貢献したいと申し出ており、地域のいきいきサロン(高齢者予備軍の方々の集まり)等に参加しております。又、役場の相談役代わりや橋渡し役も担っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回、前回の会議以降のサービス内容等を報告し、ご意見を頂いた分については、サービスの向上に活かせる様になっています。	運営推進会議には入居者と家族代表・町の総代・民生委員・町の健康福祉課・管理者・計画作成担当者が参加し年6回行われている。会議では季節ごとの行事の内容、入居者の状況報告や外部委託の検査も行われた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の提出の際には、必ず役場へ持参し、質問事項等も出向いて聞く様になっています。又、地区のグループホーム協議会を通して、事業所側の意見も伝えている関係にあります。	市の職員とも連絡を取り、介護報酬改訂時には、情報を得て協力できるよう取り組んでいる。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切行わないが、当事業所の運営方針の一つでもあります。又、身体拘束委員会を設置し、委員を中心に勉強会等を行っていますので、日中の玄関施錠はもちろん、身体拘束は一切行っておりません。	法人本部が中心となり「身体拘束委員会」で勉強会を実施したり、また、事業所内でも勉強会をしている。以前、入居者が無断で外出されたケースがあり、入居者の要望を聞き、身体拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これらの勉強会に参加した職員もいますので、その勉強会に参加した職員を中心に、全職員、常日頃から注意を払ったり、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中に、これらの事業等について勉強している者がいますので、その職員を通して全職員は学ぶことが出来ます。現在は、これらの事業等が必要な方がおられるときには支援できると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、十分な時間を設け、説明を行っていると思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が苦情受付担当者になっており、又、意見を入れてもらえる箱を設置しています。苦情が出た際には、運営に反映させる体制をとっています。	意見箱を設置して意見を聞くように取り組まれている。家族の方が来られた際に直接食事や料金について報告をされている。入居者と家族を除く運営推進会議のメンバーと事業所の全職員が苦情受付担当者となっており、苦情が出た際には運営に反映させる体制が整っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の立場からの意見は聞いてもらえる機会があります。定期的に行われる主任者会議にて職員による意見や提案を報告する機会があります。	管理者と職員一人ひとりと話す機会をあえて決めていないが、仕事中心に1対1になる時に意見・要望を聞いている。定期的に行われる主任者会議において職員の意見を聞き、出席できない職員は申し送り記録にサインをして共有している。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員がやりがいや向上心を持ってケア・業務に取り組めるような環境づくりを随時行っている。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内研修として、全職員対象やキャリア別、専門職別に、勉強会を定期的で開催している。外部研修も職員に促しを掛けたり希望を聴取し、個々の能力に合ったものに参加している。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会の定例会で、情報の共有や意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居日までの本人の状態、環境等によって本人から直接話を聞くことが困難な時もありますが、可能な限り、その時出来る方法での関係作りに努めています。		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居日までに、家族が納得していただけるまで話しをする機会を設けています。		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受けた際には、本人と家族の必要なサービスを当事業所のみと断定せず、専門的な立場での助言等をその都度させて頂いていると思います。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな状況でも、利用者の自立を目的として、確実な自立支援の介護に繋げていきたいと思っておりますが、時には職員が手を出し過ぎている介護が生じていると思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を第一に、面会時間にも夜間以外の制限や、電話等での連絡にも制限を設けていません。家族と共に本人を支えていきたい事は機会ある度に話をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人や家族の希望を、当事業所で支援できる限り実現できていると思います。	入居時、入居者・家族から馴染みの人や場所については聞き取りをし把握している。夏祭りや町の運動会では入居者の知り合いと会う事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、日によって異なりますが、出来る限り、その日に適した利用者同士の関係を実現できていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了した御家族と、電話や手紙、メール等で近況報告をしたり、可能な限り本人に会いに行っています。又、永眠された利用者の方には、通夜、葬儀、初盆参りに参加させて頂いております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの暮らし方を大事にして、入居前や機会がある度に意向の把握に努めています。	入所時にはケアマネジャー・役場・家族・職員で意見交換をし、ケアプランに反映されている。以前、夕食時、晩酌される入居者がいて、医者と相談の下アルコールを準備された事例もあった。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や面会時、電話等で情報収集を行い、当事業所での生活にも反映させていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的な職員間の申し送りや申し送りノートを活用し、現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人や家族の希望、意見を聞いて、介護計画を作成していますが、家族等からの意見が少ない為、計画作成担当者を中心に、全職員のみでの現状に即した介護計画になっていると思います。	介護計画は本人の希望を入れ、ケアマネジャーを中心に全職員からの意見を聞きながら作成されている。長期・短期計画があり、容態が悪くなった場合には随時全職員で計画を見直し、支援されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、介護計画の実践を一目でわかる様式にしていますので、見直しにも活かしていると思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟な支援を出来る体制を常にとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関しては把握できていますので、必要なときに本人の支援を出来ると思います。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた、かかりつけ医にて受診、または往診を受け、支援をしています。	入居者の希望のかかりつけ医には職員が同行される。家族が病院へ来られる場合は病院で待ち合わせる事もある。薬が変わったり、体調が悪くなった場合には電話連絡をし、記録に残し、全職員で周知されている。	現在のかかりつけ医がやめられる為、早めに他のかかりつけ医と提携する事を期待したい。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいませんが、利用者のかかりつけ医や、看護師とも親しくさせて頂いておりますので、相談しやすい環境だと思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、職員は毎日病院に行き、現状の把握をしています。退院の前には、特に情報収集を病院や家族と多くしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された利用者の方には、すでに家族、かかりつけ医、事業所と話し合いをしており、事業所の「出来ないこと」は把握して頂いています。かかりつけ医、家族にも協力を得ながら、方針を共有出来ています。	これまで看取りの経験は管理者のみある。現在看護師がいない為医療行為はできないが、家族の同意の下であれば、看取りも検討されている。緊急時対応マニュアルも準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会を行い、マニュアルも作成しています。また、事業所にてAEDを設置しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	自然災害、火災等の対応マニュアルを作成し、防火管理者を中心に避難訓練も定期的に行っています。また、緊急時には、近隣の方にも協力を得られるように体制をとっています。	管理者が防災管理者であり、「消防訓練の実施記録」には検証・反省点も記録されている。運営推進会議で訓練の様子も報告されている。防火・防災マニュアルがあり、AEDの設置もある。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どの様な場面でも、プライバシー等には十分配慮したいと思っていますが、利用者の身体機能等（難聴）によって、利用者からの確認の言葉に結果的にプライバシーを守れなかった事もあります。	トイレの扉には難聴者にも分かりやすいよう表示し、プライバシーにも配慮しながら誘導されている。苗字に「～さん」で入居者を呼び、入室の際はノックをし、一人ひとりの尊厳に配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の思いは伝えてもらったり、自己決定出来るように働きかけていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の全ての利用者の希望に添えるように努めていますが、その日の利用者の状態、職員の勤務状態等によって、その日に希望に添えない時もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備や食事、片づけを出来る利用者と職員と一緒にを行っています。	入居者と職員と一緒に食事をし、入居時に嗜好調査もされている。主に後片付けが多いが、準備・配膳も時にはされている。外部委託以外の朝食とおやつは事業所で作られ、貰い物のミカン等は食後のデザートとして出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養状態、水分量等は把握出来ていますので、不足時にはいつでも補えるように支援しています。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者の毎食後の口腔ケアは出来ていると思います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの使用を減らす為、体調不良時等以外は、ボクサーパンツに尿取りパットで対応しています。時には、一人ひとりの排泄のタイミングを逃してしまう時が有り、トイレでの排泄が出来ない事もあります。	数人であるが、オムツを減らすためにボクサーパンツにパットを固定する方法で、男女とも(女性には明るい色の物で)使用されている。排泄チェックも記録されており、失敗時には清拭やシャワー浴で対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は理解していますので、飲食物や運動等での予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、どの時間でも入浴できるようにしています。	扇方のヒノキ風呂があり、両端から入れる様の中に踏み板が付いている。入浴拒否の入居者を職員二人で入浴介助した事もあったが、声掛けや家族の協力により自分から入浴されるまでに至った事もあった。	脱衣所について整備されていない箇所があったので脱衣所の整理と浴室内のメンテナンスを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外でも、利用者それぞれが休息できる場所を確保されています。安心して、気持ちよく休息等を出来られていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時には、かかりつけ医や薬剤師等から説明を受け、お薬の説明書等で確認も行っています。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所内外で、一人ひとりに合わせた支援をしていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出を支援しています。可能な限り、外出の際は、家族にも参加の声をかけて行っています。ただし、その日に利用者の希望がかなえられない時もありますので、その時は後日に支援しています。	季節ごとの花見、紅葉などの外出や近くの足湯がある施設へ行ったり、買い物支援(行けない人には代わりに買って来る)もされている。理・美容は家族の娘さんやお嫁さんが髪をカットしたり職員がカットする事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金のトラブル防止のため、金庫で預かっていますが、外出時等には必要に応じて利用者の方に支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙でのやり取りに制限は設けていませんので、いつでも行って頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように日常的に配慮出来ていると思います。また、共有の空間には雑貨や生花等で居心地良く過ごせるようにしています。	一段高くなっているが、入居者が畳で過ごせる和室もある。その他の共用空間はバリアフリーとなっている。窓の外には屋根付きのウッドデッキもあり洗濯物を干したり、入居者の喫煙場所となっており、火が消えるまで職員が見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも、一人ひとりの場所が確保されています。思い思いに過ごされていると思います。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	徐々に本人の使い慣れた物等を持って来て頂き、本人が居心地良く過ごせる居室になってきていると思います。	入居者のお気に入りの物や家族からの要望の物、位牌を持って来られる事もある。職員が小猫を拾って来た時、大きくなったら放す予定だったが、1人の入居者が小猫を気に入り、話相手として他の入居者のアレルギーの事も考慮し、その部屋だけで飼われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも事業所内を自由に走行できる幅があり、必要箇所には手摺や滑り止め付きの踏み台、居室とトイレの扉が同色の為、トイレの扉には「せっちん」と記載した紙や、各居室入り口には本人の表札（名前プレート）を付けています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない